

山口県立下関北高等学校
令和3年度第3回学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和4年2月22日（火） 午後5時30分から午後7時10分まで

2 場 所 山口県立下関北高等学校 会議室

3 参加者 17名
学校運営協議会委員 9名（校長を除く）
学校関係者 8名（校長、教頭、事務長、CS活動推進員、教諭4名）

4 内 容

(1) 校長挨拶

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が定期的に繰り返す中で、様々な教育活動を例年通りに行うことができない状況が続いている。
- そうした中でも、学校と家庭が連携して感染予防対策を徹底することで、例年実施している教育活動や学校行事、部活動等を行い、子どもたちの学びの充実度や様々な活動の達成感を高めようと努力しているところである。
- 1月6日に行われた「豊北小学校代表児童、豊北中学校及び本校生徒会による熟議」では、たくさんの委員の皆様にご参加いただき、小中高の校種間連携や地域との連携の強化につながるものになったことを感謝している。
- 本日の協議会は、学校の取組状況の報告し、委員の皆様には学校関係者として評価していただくことが主な内容となる。限られた時間であるが、忌憚のない御意見をいただきたい。

(2) 本日の予定及び資料確認

(3) 協議等

①会長挨拶

本日は、学校の運営状況の報告を受け、委員の皆さんに学校関係者評価をしていただくことが中心となるので、よろしくお願ひしたい。

②報告・協議

■ 令和3年度学校運営状況の報告及び評価

- 生徒・保護者・教職員を対象に実施した学校運営に関するアンケートの結果をもとに作成した『令和3年度「学校評価」について』（資料2）及び、『学校運営に関する点検・評価資料』（資料1）を用いて、今年度の本校の教育活動についての全般的な説明と、評価の参考になるアンケートの結果を報告（教頭、事務長、各課長）
- 学校の説明を受けて、学校運営協議会委員が、学校関係者評価について協議

■ 令和4年度「学校教育目標」について

- 資料3により校長が説明（拍手多数により承認）
 - ・本年度の重点目標に「ITC環境を効果的に活用し、・・・」を加えた。
 - ・心身健やかで、・・・の中に「積極的」を加えた。
 - ・チャレンジ目標を「日進月歩」としている。抽象的な表現だが「絶え間なく日々進歩すること」という意味があり、生徒が学校生活や部活動等において、そのように行動するということである。

■ 次年度の地域と連携した教育活動について

- 資料4により校長が説明

③その他

■ その他 綱紀保持に係る研修等の実施報告書

- 資料5により校長が説明

【委員からの主な意見】

- まず感じたことは、先生方は自らを律して、評価は辛くなるのかということである。先生方の残業時間を減らすことは質のよい教育のためにも必要であろうと思う。「ウェルビーイング」というのがあるが御存じだろうか。長生きとか健康寿命とは別の評価軸であるが、今、注目している。小中高の子どもたちによる熟議には胸を打たれた。
- 「教職員の心身の健康の維持」について、先生方の業務が大変であることはわかる。教職員が健康でなければ、生徒も健康にはならないと考えるので、皆さんが意識されていることに感謝する。
- 2月10日のオンライン熟議については、渚の交番の方で音頭を取ってもらい、まちづくり協議会は手伝う程度だった。1月6日の小中高の子どもたちによる熟議に参加した地域の大人たちは、「地域を何とかしなければ」という思いになっているようだった。子どもたちが考えていることは、私たち大人が考えていることと一緒だった。まちづくり協議会にも少しの予算があり、生徒たちの夢を叶えたり、生徒たちが達成感を得たりするために活用できればと考えている。
- 重点目標「学習指導の改善・充実」の評価基準が他の重点目標と比べて厳しい。満足しているか正確に測ろうとするのであれば、「大変満足」という選択肢を入れるとよい。また、コース別に満足度を分析して学習指導の改善に生かすとよい。チャレンジ目標について、他校では「学習時間：学年＋2時間の定着」など、具体的に数字を盛り込んでいる。数値目標があると分かりやすいと思う。生徒数の増加が肝心である。今の枠組みでの情報発信はよくしているが、今ここにないような魅力を作ってかないといけない。学校の魅力を高めるために何か変えなければ、生徒はどんどん減っていくばかりである。このことを学校運営協議会で議論し、協議会の意見を県教委に伝えていく必要があるのではないかと。
- 「新たな学校づくりの推進」や「コミュニティ・スクールの仕組みを生かした地域連携の推進」など下関北高はよく頑張っていると思う。他校では足踏み状態、学校によっては後退していると感じるところもあるので、評価はBとなっているがAでもよいと思う。ただ、それらが志願者の増加につながっていないのが残念である。中学生の進学先として考えてもらえるよう、また定員割れができるだけ少なくなるよう、市や町への投げかけ、働きかけをしてほしい。
- 次年度への方向性も含め、よく評価をまとめていると思う。これまでも本校の卒業生がお世話になっているので、今後も連携して地域の子どもたちを育てていきたい。「ルールを守る」という項目について、生徒と教職員の評価がかけ離れているのが気になる。この辺のところを改善していくためには、「巡視」というスタンスから脱却していく方がよいと考える。小中学校でも以前は「巡視」を用いていたが、現在は使わない。高校でも「巡視」から脱却することがキーポイントではないか。
- 学校評価については、評価基準をよく考えてやっていく必要がある。例えば「時間外勤務時間の削減」において、前年度と比較する評価基準を当てはめると、自分たちの首を絞めることになる。学習指導については、評価基準をあえて厳しくする必要があるか考えてほしい。
- 今回の志願登録の倍率を見てショックを受けた。来年度の課題として、学校運営協議会の委員に関して、情報発信できる人、コマーシャル性の高い人、現役世代の方を入れるなど、人選を考えるべきだと思う。
- 進路だよりは、卒業生が寄稿した内容など、在校生にとって役立つ情報であり、発行には感心している。小中高の熟議を生かした学校・地域の活性化については、折角出た意見が言い放しにならないよう、我々大人がしっかりと支えていく必要がある。志願者の増加が大きな課題であるというのは、皆思っていることである。学校運営協議会委員に加え、地域の大人や生徒なども入って協議するなど、本協議会のもち方も考えていく必要があると思う。皆様の様々な意見を参考に対応していきたい。